プロローグ――『源氏物語』は五世紀史を描いている (1)

第一章 光源氏の持つ二つの運命――「祭祀王」と「執政王」の時代 1

第一節 光源氏の持つ二つの運命とは 1
第二節 天の下助くる方――『源氏物語』から解ける「倭の五王の時代」 19
第三節 「執政王」の起源 45
第四節 もう一人の「たすく」倭王「済」 59
【幕末の「たすく」】 70

第二章 嫉妬とスキャンダルの世紀 73

第一節 嫉妬の五世紀史――桐壺帝のモデルは誰か 73
第二節 美男・美女の五世紀史 85
第三節 桐壺の更衣の悲劇――青銅と鉄の争い 96

第三章　鏡に映った五世紀史——隅田八幡宮所蔵明鏡銘文から読み解く五世紀——　107
第一節　歴史的事件を記録した鏡　107
第二節　「男弟王」は允恭天皇　112
第三節　「斯麻」は誰か　120
第四節　「日十大王」は仁徳天皇　129
第五節　隅田八幡宮所蔵明鏡銘文によってもたらされた政局の一変　135
【藤原道長の思惑から生じた紫式部の宮仕え】　140

第四章　光源氏の栄達から読み解く五世紀史——兄弟の争いの世紀——　143
第一節　雄略天皇出生の謎——光に包まれて出生した雄略天皇　143
第二節　謎の倭王「興」　146
第三節　光源氏と朱雀帝の皇位継承争い——木梨軽皇子と安康天皇　161
第四節　五世紀の祭政一致問題　175

第五章　五世紀末の皇統の混乱と統合への道——『源氏物語』の本当のテーマ——　183
第一節　冷泉帝は清寧天皇　183
【秀吉の桐の家紋】　191
第二節　五世紀末の皇統の混乱　194
第三節　「玉蔓十帖」の謎——日向の謎　196
エピローグ——『源氏物語』は日本国誕生の歴史を描いている　213
【注】　215
あとがき　234